くもりのち晴れ

ウィン　ピェ　ピェ　アウン

テレビで「くもりのち雨」と天気予報が流れる。だから、今くもっているけれど、もうすぐ雨が降るだろうと考えて、干してある洗濯物を取り込んだりする。これは日常生活の一場面だ。

普通、私たちには目が二つしかないと思っているが、実は見えない目がたくさんある。物の価値を見る目、将来を見る目、人を判断する目など様々ある。そして、なかなか気付かないところに「くもっている目」がある。それは自分を見る目のことだ。自分を見る目とは、自分のやっていることが正しいかどうかを認識する目ということだ。私たちのほとんどは、その目がくもっているらしい。でも、どれぐらいくもっているかは、人によって違うようだ。

私たちは天気予報の情報や経験上、くもっているからもうすぐ雨が降るだろうと知って

いる。でも、人は将来何が起こるか分からない。明日、将来を劇的に変える出来事があるかもしれないし、くだらない人生に向かうだけかもしれない。はっきり知ることができないから、自分の目だけで判断してしまう。そうしているうちに、なんとなく自分のほうに偏った考えをしてしまうのだ。雨が降るから洗濯物を取り込もうというような理屈にあった行動を取ることができない。そうやって、どんどん目がくもっていく。

すると、自分の都合のいいようにしか考えなくなる。他の人と話し合って妥協や譲歩をしようとしない人もいれば、ささいなことは他の人に譲るけれど、チャンスと見ると他人を押しのけてでも先に進みたがる人もいる。確かに、全員の目がくもっていたら、私たちは今までどうやって社会生活をしてきたのだろうと疑問に思うかもしれないが、人は多かれ少なかれ目がくもっていると思う。

私も以前は家族と暮らしていたので、自分

のことしか考えなかったし、それが悪いとも思わなかった。でも、日本に来て、初めて友達と生活をするようになって、他の人のことを気遣うようになった。というか、気遣わなければならないと思い知った。

例えば、友達と一緒にトイレに行って友達が先に終わった時は、いつも友達に私を待つように言う。でも、私が先に終わると、友達は何も言わないので、私は先に帰ってしまう。そして、「それ、自分勝手だよ。よくないよ。」と友達に言われると、だって待ってと言わなかったからと口を濁してその場をやり過ごす。後で考えると、やっぱり私の目はくもっていたと反省する。

その友達も私にそう注意したけど、「えっ」と思ったこともある。旅行に行った時、友達はユーチューブを見たいから、私のスマホを貸してほしいと言った。「ちょっとだけだよね。」と貸してあげたが、自分ので見ればいいと思って理由を聞いてみると、自分のスマ

ホのバッテリーが少なくなったから、あまりスマホを使わない私のを借りたというのだ。「充電器を持ってきていないから、あまり使わないようにしているんだ。」と言ったら、どうせ使わないんだから借りても大丈夫じゃないと言わんばかりに私を見た。そんなに大したことではないが、他人のスマホは別にどうでもいいという考えは、つまり自分のことしか考えていない。やはり目がくもっているのだ。

自分を見る目のどこが、どのぐらいくもっているかは、人それぞれだ。時々、友達と話している時、その友達は他の友達の悪いところを指摘する。そう言っている本人にも同じような悪いところがあるのに、自分が正しいかのように言う。私自身にもきっとそういうところがあるだろう。頭の上のハエを追えということわざのとおり、他人のことはともかく、自分自身をちゃんと見つめることが肝心ではないだろうか。

誰でも自分を見る目はくもっている。自分を客観視するのは難しいし、自分の悪いところを指摘されるのはいい気がしない。でも、自分の悪いところを受け入れなければならない。周りの人の忠告に耳を貸す。バックミラーを置いて過ぎ去ったことにも気をつけて、正しかったかどうか反省する。自分のことより他人のことを優先しろとまでは言えないが、人とかかわりながら生きていく社会で、自分の行動をちゃんと認識し、見つめ直す目を持っていたい。

どこがくもっているか、どのくらいくもっているかは人それぞれだから、お互いに教え合って直していけば、それで十分いいと思う。

私たちの目が「くもりのち晴れ」となりますように。